

令和8年6月1日
第2回村議会定例会

諸 般 の 報 告

更別村議会議長

1 説明員

地方自治法第121条の規定により、令和8年第2回更別村議会定例会に出席を求めた者及び委任者は次のとおりである。

出席を求めた者	委 任 者
更別村長 西 山 猛	副 村 長 大 野 仁
	総 務 課 長 佐 藤 敬 貴
	総 務 課 参 事 小 寺 誠
	企画政策課長 本 内 秀 明
	企画政策課参事 今 野 雅 裕
	産 業 課 長 中 村 清
	住民生活課長 吉 井 敬 紀
	会 計 管 理 者
	建設水道課長 石 川 亮
	保健福祉課長 新 関 保
	子育て応援課長 酒 井 智 寛
更別村教育委員会教育長 宝 輪 祐 子	診療所事務長 伊 東 秀 行
	教 育 次 長 渡 辺 秀 樹
更別村農業委員会	学校給食センター所長 小 林 浩 二
	事 務 局 長 川 上 祐 明
更別村代表監査委員 笠 原 幸 宏	

2 会議

5月25日 十勝圏活性化推進期成会定期総会（帯広市 議長出席）

3 所管事務調査の報告

会議規則第77条の規定により別紙のとおり報告された。

4 例月出納検査

5月14日 令和7年度:令和8年4月分の例月出納検査報告書が提出された。
令和8年度:令和8年4月分の例月出納検査報告書が提出された。

5 委員会

5月25日 議会運営委員会（議員控室）
第2回村議会定例会の運営について
全員協議会（議員控室）
認定こども園どんぐり保育園保育スペースの課題への対応について

6 その他

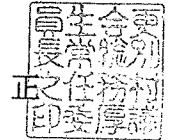
5月19日 第65回更別村商工会通常総会（更別村 議長出席）
5月20日 更別村農業協同組合第78回通常総会（更別村 議長出席）
5月24日 特定非営利活動法人どんぐり村サラリ第19回通常総会
（更別村 議長出席）
5月28日 更別消防団春期消防演習（更別村 議長出席）



令和 8 年 5 月 25 日

更別村議会議長 織 田 忠 司 様

総務厚生常任委員会
委員長 荻 原



総務厚生常任委員会所管事務調査報告書

本委員会は、所管事項について下記により調査をしたので、会議規則第77条の規定により、調査の概要を報告いたします。

記

- 1 調査日時 令和 8 年 5 月 11 日 (月) 午前 9 時
- 2 調査場所 更別村議会議員控室、シルバーハウジング生活相談・団らん室、空き家となっているシルバーハウジング住宅
- 3 調査事項 シルバーハウジングの入居状況と利用のあり方について
- 4 経 過 委員会委員 5 名の出席により、調査事項について建設水道課長、保健福祉課長の出席を求め、説明を受けた後、現地調査を実施した。

5 調査の結果

(1) 現状について

- ・シルバーハウジングは高齢者の生活特性に配慮した設備・仕様やサービスが伴った住宅として、平成 7 年度から平成 12 年度にかけて 6 棟 30 戸が整備されると共に、入居者の安否確認や生活指導・相談を行う生活援助員住宅及び団らん室が配置されている。又、各住戸と団らん室等をつなぐ屋根付き通路により、冬期間や悪天候時でも安全な移動を確保し、入居者間の交流が促進できるよう配慮がされている。
- ・直近 5 年間の入居状況を見ると令和 3 ～ 5 年度については 25 戸～27 戸（入居率 83.3～93.3%）となっているが、令和 6・7 年度については、それぞれ 19 戸となっており、およそ約 3 分の 1 のシルバーハウジ



ングが空き家の状態になっている。

- ・入居者の見守り体制については、緊急通報システムの利用回数が毎年約1,000件（誤報含む）ほどあり、毎日の玄関ドア外側に掛けられている「元気札」の確認や団らん室での交流を通して、必要な安否確認や生活相談等を行っている。

（２）課題と今後の方向性について

シルバーハウジングは独り暮らしの高齢者や高齢夫婦世帯が自立し、可能な限り住み慣れた地域で安全かつ快適な日常生活がおくれるよう建設されたものである。しかしながら、直近２年間の入居状況は約３分の１が空き家になっており、何故、入居率が低いのか原因等を明らかにし、改善が必要であれば早急に対応を図る必要がある。

平成７年度に建設された住宅は、既に30年経過していることから、入居を敬遠する方がいることも予想される。現地調査での空き家の内部は、非常に綺麗に管理されており、それを理由とした入居率の減少は考えづらく、その他として各委員からは、冬期間の室内が寒いという入居者のお話があるとの説明を受けた。シルバーハウジング住宅はオール電化であり、暖房は蓄熱暖房機を採用しており、寒い日に暖房を入れても、蓄熱されていなければ温かい空気は流れてこない。又、鉄筋コンクリート造（外断熱工法）であることから、室内の鉄筋コンクリートが暖められていないと、室温が上がらないことも考えられる。しかしながら、築30年ということを考えれば、スイッチ等の暖房装置等に不具合も生じることも考えられるため、定期的な点検も行い、そのような評価が入居を考える人の妨げにならないよう検討しなければならない。又、平成24年度以降、公営住宅の建替えは高齢者や障がい者を含め全ての人が利用しやすいユニバーサルデザインを採用しており、シルバーハウジングに頼らない、又は住み慣れた我が家に残ることを選ぶ高齢者世帯等がいることも空き家が出る一つの要因と考えられる。

いずれにしてもシルバーハウジングに対する一定のニーズは確認されることから、適正な管理、並びに入居促進に引き続き務めて頂きたい。

以上、報告とする。



令和 8 年 5 月 27 日

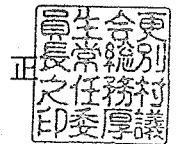
更別村議会議長 織 田 忠 司 様

産業文教常任委員会

委員長 斎 藤

総務厚生常任委員会

委員長 荻 原



総務厚生・産業文教常任委員会所管事務調査報告書

両委員会は、所管事項について下記により調査をしたので、会議規則第77条の規定により、調査の概要を報告いたします。

記

- 1 調査日時 令和8年5月11日(月) 午後1時30分
- 2 調査場所 更別村議会議員控室
- 3 調査事項 更別スーパービレッジ構想推進事業の進捗状況と今後の方向性について
- 4 経 過 両委員会委員6名(1名欠席)の出席により、調査事項について企画政策課長、企画政策課参事の出席を求め、説明を受けた。なおソーシャルナレッジバンク社からも2名が出席した。

最初に企画政策課参事から、事業の目的と経緯について説明があり、その後質疑に移った。

5 調査の結果

(1) 現状

本事業には、令和4年度途中の採択から令和7年度までの4か年に2,291百万円の事業費が投入された。財源の内訳は国の交付金1,414百万円、コロナウイルス対策交付金214百万円、企業版ふるさと納税125百万円、一般財源から537百万円である(四捨五入のため合計は一致しない)。また、これより前に実施された令和2年度の農村部光回線敷設、令和3年度のデータ連携基盤整備(事業費199百万円の大半がコロナウイルス対策



交付金による)が本事業のインフラを構成している。

実施された事業の総数は27に及ぶが、そのうち7事業は実証段階から脱却できないなどの理由で終了している。また運動・トレーニング関係の事業は民間の自主事業化の流れである。村事業として継続方針のものには、デマンド交通、施設予約、コミュニティーナースなどがある。

事業予算は、村からソーシャルナレッジバンク社(SKB社)と株式会社CNC(コミュニティーナースカンパニー)に交付され、SKB社が個々の事業について事業者を選定している。

(2) 質問と指摘

数多くの事業メニューが相互に、あるいは村の施策と重複しているので、事業を選択し整理すべきであるという指摘が相次いだ。特にコミュニティーナースの活動と村の事業、社会福祉協議会の事業の重複が指摘された。企画政策課からはこれらの事業は連携しているという説明があったが、認識の相違が残った。

データ連携基盤については、毎年3千万円の維持費が必要で、他の自治体から使用料が受け取れなければ、今後も負担が続くことになる。

ひゃくわくの送迎で利用されていた電気自動車バスは修理中で、メーカーが民事再生法を申請しているため、修理の完了が見通せず、交付金の返還もありうるようになった。

本事業ではスマート農業関係の実証実験の予算が大きな部分を占めている。フードバレーとかち推進協議会がAI特区を目指す動きもあり、更別村が一般財源から支出することの妥当性は議論の余地がある。

(3) まとめ

本事業は当初、交付金に頼らない自立運営を3年から5年で実現する目標を掲げていたが、国・村からの交付金以外の収益基盤は確立していない。この点で、本事業の目的であった産業・雇用の創出が実現したとは評価できない。個々の事業について費用対効果を精査し、次年度予算編成より前に、スーパービレッジ構想推進事業について責任ある総括をして、将来像を示すことを求める。

以上、報告とする。